

柏木教会月報

12月号

東京都新宿区北新宿3-1-18 ☎ 03-3368-2156 www.church.ne.jp/kashiwagi/

神の国に生きる

マルコによる福音書四章二二～三四節

牧師 富永 憲司

夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出し成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。(二七節)

教会は、アドヴェントの時を過ごしています。この季節は、主イエスと共にすでに到来した神の国を確認し、やがて再び来りたもう主と、その際に完成する神の国を新たに待ち望む時もあります。ところが、わたしどもは神の救いの「すでに」と「いまだ」の間に迷い、見えない神の国の約束そのものを疑い始めます。

成長する種のたとえ

主イエスは、それに対し、一旦撒かれた神の国の種は、神ご自身の命の業によって、必ず芽を出し、生育していくのだから、忍耐して待ち望みなさいと言われます。わたしでも、植えた種から芽が本当に出るのかを心配して、いつも土を掘り起こすような愚かなことはしません。委ねて、待つのです。土の中で起こっている命の営みを信頼し、委ねることと待つことを覚えるのです。

神の国の隠れた命の営み
「夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長

する」と、主イエスは言われます。夜と昼、とあります。そのように、人生には、暗闇に閉ざされた夜もあれば、光に照らされた昼もあります。みなさまは、ご自分の人生のうち、光に照らされ部分だけが、神さまが恵みをもつて一生懸命に働いてくださっている時だと思っていませんか。実は、みなさまの人生から光が失われ、暗闇の中に閉じこめられたような時にも、その恵みの働きは止まず、みなさまの中で神の国は成長しているのです。

「どうしてそうなるのか、その人は知らない。」と、主イエスは言われます。確かに、わたしどもは苦しみや悲しみの意味を知ることができません。どうして、こんなことが、よりによつてこのわたしに起るのか、それが分からなくて、わたしもはつぶやき、迷います。

しかし、たとえ今は何も分からなくても、「土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる」のですから、見えないところで進む神の国の命の営みに信頼するのです。

神さまの恵みのご配剤

しかも、その命の営みには、決して無駄なことはなく、神さまの深いご計画に基づく諸段階があり、それを経たのちにしか、実りはやつて来ないと言われます。

神の国の信仰生活には、様々な諸段階があります。夜の時、昼の時があります。芽の時、穂の時があります。しかし、すべては祝福をもたらすための神さまのご配剤の恵みゆえに、わたしでもまた一喜一憂することなく、必ず次の段階が開け、多くの実りを得る時が来ることを信じて、待ちつつ歩み続けてまいりましょう。